

学校の基礎情報

北部地域

		小学校			
		小 松	木 戸	和 邇	
沿革		<ul style="list-style-type: none"> ・明治7年:前身、思齊学校(南小松)、薬師堂学校(北小松)、比良学校(北比良)創立 ・昭和22年:小松小学校と改称 ・昭和39年:現在地に校舎竣工 ・昭和41年:北小松分校が廃止 ・平成18年:大津市立小松小学校に改称 	<ul style="list-style-type: none"> ・明治7年:前身、暮雪学校、明治8年:木戸小学校・達識学校が創立 ・昭和30年:志賀町立木戸小学校に改称 ・平成5年:現在地に新校舎完成 ・平成18年:大津市立木戸小学校に改称 	<ul style="list-style-type: none"> ・明治6年:令徳学校(南浜)が創立 ・昭和55年:小野小学校を分離 ・平成18年:大津市立和邇小学校に改称 	
教育の特徴 地域との関わり		<ul style="list-style-type: none"> ・登山遠足、琵琶湖遠泳、マラソン大会、スキー教室などの伝統的な体育的行事 ・読解力と表現力を伸ばす指導、家庭学習の習慣化による確かな学力を育成 ・保護者や地域の人々による教育活動・体育的行事や見守り活動への協力 	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数指導、ICT活用指導の充実、一日10分学びの時間 ・比良ハイキング、カヌー体験、農業学習などの自然や農業を生かした校外活動 ・「百間堤の精神」による地域住民の教育への関心 ・スクールガードの地域ボランティア活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサルデザインの観点からの学力向上への取組 ・自然や遺跡、人(小野妹子)など地域資源を生かした教育活動、校内百人一首大会や長縄大会を展開 ・PTAが親子の交流の場となる「ひびきあい活動」を各学年で実施 	
児童・生徒数 学級数推移 ()は 特別支援学級 (内数)	1980	289人/12学級(1学級)	248人/7学級(-)	550人/15学級(-)	
	2000	268人/12学級(2学級)	280人/13学級(1学級)	671人/23学級(4学級)	
	2010	199人/9学級(4人/3学級)	314人/15学級(4人/3学級)	592人/22学級(5人/3学級)	
	2015	208人/9学級(2人/1学級)	270人/13学級(5人/3学級)	535人/20学級(8人/2学級)	
通学環境	地理	地形	大部分は山地であり、居住地は琵琶湖岸へ向かって緩やかに傾斜した扇状地に広がる	西北部は山地であり、居住地は琵琶湖岸へ向かって緩やかに傾斜した扇状地に広がる	中・西部は山地からなり、居住地は琵琶湖岸の扇状地部分や堅田丘陵に開発された住宅団地に位置する
		標高	学校:90m 居住地:86~163m	学校:91m 居住地:86~278m	学校:97m 居住地:86~206m
		通学距離 (時間)	3.3km(54分)	4.5km(73分)	3.1km(50分)
	通学方法	概要	・4人に3人が徒歩通学、他は北小松駅および比良駅からJR湖西線(乗車時間約3分)で通学	・5人に3人が徒歩、他は比良駅および蓬萊駅からJR湖西線(乗車時間約3分)で通学	・ほぼ全員が徒歩通学
		利用手段	徒歩:約77% 公共交通:約21% その他:約2%	徒歩:約56% 公共交通:約44%	徒歩:約96% 公共交通:約3% その他:約1%
	学校施設	保有面積	校地	15,980㎡	30,260㎡
校舎			3,322㎡	4,100㎡	4,649㎡
運動場			6,620㎡	15,853㎡	7,695㎡
校舎建築年 ²		昭和40(1965)年	平成5(1993)年	昭和40(1965)年	

¹ 通学距離・時間:通学距離は、校区内の居住地域で学校から最も遠い場所までの直線距離であり、学校からこの範囲内に居住地が広がることを示す値で、実際の歩行距離とは異なる。通学時間は、小学生3.7km/h、中学生4.4km/h(出典:建築設計資料集成[人間])で通学距離を除いて算出。

² 校舎建築年:現在使用している校舎のうち、最も古い建物の建築年を示している。

		小学校	小学校（参考）	中学校	
		小 野	真野北	志 賀	
沿 革		<ul style="list-style-type: none"> 昭和 55 年：志賀町立和邇小学校から分離独立し、志賀町立小野小学校として新設開校 昭和 54 年：校舎建築第一期工事（本館）起工 平成 18 年：大津市立小野小学校に改称 	<ul style="list-style-type: none"> 平成 2 年：大津市立真野小学校から分離独立し、大津市立真野北小学校として新設開校 	<ul style="list-style-type: none"> 昭和 22 年：志賀町立和邇中学校、木戸中学校、小松中学校創立 昭和 52 年：現在地へ併合移転 平成 18 年：大津市立志賀中学校に改称 	
教育の特徴 地域との関わり		<ul style="list-style-type: none"> 道徳教育を要とした各教科等の指導の充実 縦割り活動班による「奉仕活動」等の異年齢集団活動や学級集団遊びの工夫等の人間関係を豊かにする活動の充実 自治連合会が主体となり、小野小学校を中心とする地域の盛り上げを図る機運の高まり 	<ul style="list-style-type: none"> 学び合い学習を取り入れた協同的な学びの研究の推進 地域住民の学校行事や総合的学習等の指導、児童の地域行事や地域主催の子ども向け行事への参加 	<ul style="list-style-type: none"> 協同的な学びに取り組み、聴き合う関係を育てる授業実践 県外・市外からの多数の参観者による授業・研究への評価 地域人材の活用、地元大学との連携の促進 	
児童・生徒数 学級数推移 ()は 特別支援学級 (内数)	1980	396 人/12 学級(一)	-	567 人/15 学級(1 学級)	
	2000	292 人/11 学級(一)	716 人/24 学級(4 人/2 学級)	778 人/23 学級(2 学級)	
	2010	201 人/8 学級(1 人/1 学級)	332 人/13 学級(3 人/1 学級)	652 人/20 学級(3 人/2 学級)	
	2015	140 人/7 学級(2 人/1 学級)	224 人/9 学級(2 人/1 学級)	606 人/22 学級(8 人/4 学級)	
通学環境	地理	地形	大部分が堅田丘陵にあり、全域が大規模に開発された住宅団地となっている	大部分が堅田丘陵にあり、地区の西部・東南部に大規模な住宅団地が形成されている	大部分が山地であり、居住地は琵琶湖岸の扇状地に広がる。小松・木戸・和邇・小野小学校区を有する
		標高	学校：114m 居住地：96～136m	学校：133m 居住地：104～141m	学校：132m 居住地：86～278m
		通学距離 (時間)	1.0km(16分)	1.6km(26分)	11.5km(157分)
	通学方法	概要	全員が徒歩通学	全員が徒歩通学	5人に3人がJR湖西線（北小松駅から乗車時間約15分、小野駅から乗車時間約6分）で、4人に1人が自転車（自宅と最寄駅間）、他は徒歩で通学
		利用手段	徒歩：100.0%	徒歩：100.0%	徒歩：約10% 自転車：約25% 公共交通：約65%
	学校施設	保有面積	校地	25,212 m ²	24,015 m ²
校舎			4,288 m ²	6,427 m ²	7,290 m ²
運動場			11,150 m ²	9,699 m ²	27,070 m ²
校舎建築年		昭和 55(1980)年	平成 2(1990)年	昭和 51(1976)年	

西北部

		小学校			
		葛川	伊香立	真野	
沿革		<ul style="list-style-type: none"> ・明治6年:前身、弘文学校、梅葛学校、蓬萊学校創立 ・昭和22年:葛川村立葛川小学校に改称 ・昭和42年:大津市立葛川小学校に改称 	<ul style="list-style-type: none"> ・明治6年:前身、勤業学校創立 ・昭和30年:堅田町立伊香立小学校に改称 ・昭和42年:大津市立伊香立小学校に改称 ・昭和43年:途中・龍華分校廃止 	<ul style="list-style-type: none"> ・明治8年:前身、榛原小学校創立 ・昭和42年:大津市立真野小学校に改称 ・平成2年:真野北小学校を分離 	
教育の特徴 地域との関わり		<ul style="list-style-type: none"> ・少人数の利点を生かした、個に応じたきめ細かな指導 ・同一敷地内の中学校との連携した9年間連続した指導や催しの合同開催 ・地域人材の授業等への参加、地域行事への学校参加等地域との密接な関わり 	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模校・少人数の特性や利点を最大限に生かした教育活動 ・地域の保幼小中、養護学校との連携や積極的な交流 ・地域住民のクラブ活動指導や、地域の農業や伝統文化を活かした地域住民との密接な関わりの中での体験学習 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童同士、児童と教師が互いに学ぶ、協同的な学習形態 ・地域の支援で全学級がつくる「真野川こいのぼり」、地域講師による「人・事象・自然」を取り入れた教育活動 	
児童・生徒数 学級数推移 ()は 特別支援学級 (内数)	1980	52人/6学級(—/—)	257人/11学級(—/—)	547人/16学級(4人/1学級)	
	2000	27人/6学級(—/—)	160人/10学級(2人/2学級)	453人/15学級(3人/1学級)	
	2010	20人/5学級(—/—)	88人/7学級(1人/1学級)	417人/17学級(6人/3学級)	
	2015	16人/5学級(—/—)	85人/7学級(1人/1学級)	479人/21学級(8人/4学級)	
通学環境	地理	地形	大部分が山地であり、居住地は地区を縦断する国道367号に沿う集落として点在する	北部及び西部は山地からなり、居住地は南東部の堅田丘陵や平野部分に広がる	西部は堅田丘陵、東部は段丘や平地からなり、居住地は東部の平地から国道477号沿いに広がる
		標高	学校:330m 居住地:241~463m	学校:184m 居住地:122~317m	学校:100m 居住地:86~140m
		通学距離 (時間)	6.4km(104分)	4.2km(68分)	2.1km(34分)
	通学方法	概要	全員がスクールバスで通学 ・京都市久多からもスクールバスで通学(バスで30分)	5人に3人が徒歩、他が路線バス(乗車時間約7分)で通学	ほぼ全員が徒歩通学
利用手段		スクールバス等:100.0%	徒歩:約55% 公共交通:約45%	徒歩:約98% その他:約2%	
学校施設	保有面積	校地	7,444㎡	14,601㎡	17,378㎡
		校舎	1,194㎡	2,875㎡	6,354㎡
		運動場	3,737㎡	9,149㎡	9,115㎡
	校舎建築年 ⁴	平成5(1993)年	昭和43(1968)年	昭和50(1975)年	

³ 通学距離・時間:通学距離は、校区内の居住地域で学校から最も遠い場所までの直線距離であり、学校からこの範囲内に居住地が広がることを示す値で、実際の歩行距離とは異なる。通学時間は、小学生3.7km/h、中学生4.4km/h(出典:建築設計資料集成[人間])で通学距離を除いて算出。

⁴ 校舎建築年:現在使用している校舎のうち、最も古い建物の建築年を示している。

		小学校			
		真野北	堅 田	仰 木	
沿 革		平成2年:真野小学校から分離独立し、大津市立真野北小学校として新設開校	<ul style="list-style-type: none"> ・明治5年:前身 致道学校創立 ・昭和21年:堅田町立堅田小学校に改称 ・昭和42年:大津市立堅田小学校に改称 ・平成8年:学区変更 	<ul style="list-style-type: none"> ・明治6年:前身、第58小学校、新盛学校創立 ・昭和42年:大津市立仰木小学校に改称 ・平成2年:仰木の里小学校を分離 	
教育の特徴 地域との関わり		<ul style="list-style-type: none"> ・学び合い学習を取り入れた協同的な学びの研究の推進 ・地域住民の学校行事や総合的学習等の指導、児童の地域行事や地域主催の子ども向け行事への参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・通常学級に在籍する特別な支援を要する児童について「すまいる教室」(取り出し指導)を実施するなど特別支援教育に注力 ・清掃活動や行事への参加等で地域と交流 ・校舎前に琵琶湖池と百年橋を設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育目標『愛郷雄飛』を基に、心豊かな子供の育成 ・地域の支援による地域資源を生かした、米作り、森林学習、太鼓・踊り等の学習 	
児童・生徒数 学級数推移 ()は 特別支援学級 (内数)	1980	-	1,040人/27学級(4人/1学級)	267人/9学級(-/-)	
	2000	716人/24学級(4人/2学級)	1,241人/37学級(3人/1学級)	160人/8学級(1人/1学級)	
	2010	332人/13学級(3人/1学級)	966人/31学級(9人/2学級)	122人/6学級(-/-)	
	2015	224人/9学級(2人/1学級)	816人/28学級(13人/4学級)	93人/8学級(2人/2学級)	
通学環境	地理	地形	大部分が堅田丘陵にあり、地区の西部・東南部に大規模な住宅団地が形成されている	大部分が低地であり、西部に堅田丘陵と台地が分布し、居住地は校区全域に農地とともに広がる	大部分が山地や丘陵地となっており、居住地は地区東部の堅田丘陵に広がる
		標高	学校:133m 居住地:104~141m	学校:89m 居住地:85~124m	学校:182m 居住地:147~233m
		通学距離 (時間)	1.6km(26分)	2.4km(39分)	1.2km(19分)
	通学方法	概要	・全員が徒歩通学	・ほぼ全員が徒歩通学	・ほぼ全員が徒歩通学
		利用手段	徒歩:100.0%	徒歩:99%以上 その他:1%未満	徒歩:約98% その他:約2%
学校施設	保有面積	校地	24,015㎡	21,608㎡	11,301㎡
		校舎	6,427㎡	8,246㎡	3,460㎡
		運動場	9,699㎡	7,524㎡	5,299㎡
	校舎建築年	平成2(1990)年	昭和48(1973)年	昭和55(1980)年	

		小学校		小学校（参考）	
		仰木の里	仰木の里東	小 野	
沿 革		<ul style="list-style-type: none"> 平成2年：仰木小学校から分離独立し、大津市立仰木の里小学校として新設開校 平成8年：仰木の里東小学校を分離 	<ul style="list-style-type: none"> 平成8年：仰木の里小学校および堅田小学校の分離・統合により大津市立仰木の里東小学校として新設開校 	<ul style="list-style-type: none"> 昭和55年：志賀町立和邇小学校から分離独立し、志賀町立小野小学校として新設開校 昭和54年：校舎建築第一期工事（本館）起工 平成18年：大津市立小野小学校に改称 	
教育の特徴 地域との関わり		<ul style="list-style-type: none"> 子どもの「生きる力」を育む教育を目指し、話し合い活動、異年齢集団活動、道徳教育の充実、「聞き合う・学び合う」学習の研究を推進 図書館や花壇充実、学習支援、安全防災等、地域ぐるみで学校運営を支援する体制を整備 	<ul style="list-style-type: none"> コの字型の教室で、子どもたち同士が顔を見ながら意見交流できる学び合いの授業 スクールガード等による地域からの支援 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳教育を要とした各教科等の指導の充実 縦割り活動班による「奉仕活動」等の異年齢集団活動や学級集団遊びの工夫等の人間関係を豊かにする活動の充実 自治連合会が主体となり、小野小学校を中心とする地域の盛り上げを図る機運の高まり 	
児童・生徒数 学級数推移 ()は 特別支援学級 (内数)	1980	-	-	-	
	2000	474人/19学級(4人/2学級)	567人/22学級(4人/2学級)	-	
	2010	267人/15学級(5人/3学級)	771人/27学級(6人/3学級)	201人/8学級(1人/1学級)	
	2015	198人/9学級(2人/2学級)	727人/24学級(6人/1学級)	140人/7学級(2人/1学級)	
通学環境	地理	地形	全域が堅田丘陵を大規模に造成した住宅団地である	全域が堅田丘陵を大規模に造成した住宅団地である	大部分が堅田丘陵にあり、全域が大規模に開発された住宅団地となっている
		標高	学校：126m 居住地：119～152m	学校：118m 居住地：95～135m	学校：114m 居住地：96～136m
		通学距離 (時間)	1.0km(16分)	1.5km(24分)	1.0km(16分)
	通学方法	概要	9割が徒歩、一部が路線バス等で通学	全員が徒歩通学	全員が徒歩通学
		利用手段	徒歩：約87% 公共交通：約5% その他：約8%	徒歩：100.0%	徒歩：100.0%
学校施設	保有面積	校地	31,759㎡	27,500㎡	25,212㎡
		校舎	5,155㎡	5,619㎡	4,288㎡
		運動場	13,123㎡	11,172㎡	11,150㎡
	校舎建築年	平成2(1990)年	平成8(1996)年	昭和55(1980)年	

		中学校			
		葛川	伊香立	真野	
沿革		<ul style="list-style-type: none"> 昭和 22 年:葛川村立葛川中学校創立 昭和 42 年:大津市立堅田中学校葛川分校に改称 昭和 50 年:大津市立葛川中学校に改称 	<ul style="list-style-type: none"> 昭和 22 年:伊香立村立伊香立中学校創立 昭和 42 年:大津市立堅田中学校伊香立分校に改称 昭和 50 年:昭和 24 年の移転を経て現在地に移転 昭和 50 年:大津市立堅田中学校伊香立分校から独立し、大津市立伊香立中学校に改称 	<ul style="list-style-type: none"> 昭和 63 年:大津市立堅田中学校から分離独立し、大津市立真野中学校として新設開校 	
教育の特徴 地域との関わり		<ul style="list-style-type: none"> 同一敷地の小学校と合同授業・行事で密接な連携 少人数学校の良さを生かしたきめ細やかな学習指導、協同的学びによる探求的な学習 地域との連携で、学校林活動等豊かな自然・伝統文化を学ぶ教育 	<ul style="list-style-type: none"> 小規模校の利点を活かした、大学での体験学習、一斉補充学習、全教員・生徒一体の昼食、特色のある部活動等 地域行事への参加、学校行事への地域参加 校内の伊香立水族館を開放 	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりに活躍の場があることによる学校満足度の高評価 「学び合い」を取り入れた授業の導入による認め合い、支え合う学校風土の醸成 地域行事への生徒参画、地域から部活動や学習への支援 	
児童・生徒数 学級数推移 ()は 特別支援学級 (内数)	1980	39 人/3 学級(—/—)	134 人/5 学級(—/—)	-	
	2000	11 人/3 学級(—/—)	97 人/4 学級(—/—)	717 人/22 学級(4 人/1 学級)	
	2010	8 人/3 学級(—/—)	27 人/4 学級(1 人/1 学級)	404 人/13 学級(3 人/2 学級)	
	2015	10 人/3 学級(—/—)	37 人/3 学級(—/—)	290 人/11 学級(5 人/2 学級)	
通学環境	地理	地形	大部分が山地であり、居住地は地区を縦断する国道 367 号に沿う集落として点在する。葛川小学校校区と同一校区をなす	北部及び西部は山地からなり、居住地は南東部の堅田丘陵や平地に広がる。伊香立小学校校区と同一校区をなす	大部分が堅田丘陵にあり、校区の北部に位置する真野北小学校区には大規模な住宅団地が形成されている
		標高	学校：330m 居住地：241～463m	学校：191m 居住地：122～317m	学校：131m 居住地：86～141m
		通学距離 (時間)	6.4km(87 分)	3.5km(48 分)	2.8km(38 分)
	通学方法	概要	全員がスクールバス等で通学 京都市久多からもスクールバスで通学(バスで 30 分)	4 人に 3 人が自転車通学、他は路線バス等で通学	5 人に 3 人が徒歩、他は自転車 で通学
利用手段		スクールバス等：100.0%	自転車：約 78% 路線バス等：約 22%	徒歩：約 57% 自転車：約 42% 公共交通：約 1%	
学校施設	保有面積	校地	927 m ²	34,900 m ²	25,745 m ²
		校舎	1,434 m ²	5,062 m ²	6,234 m ²
		運動場	0 m ²	15,700 m ²	14,901 m ²
	校舎建築年	昭和 50(1975)年	昭和 51(1976)年	昭和 63(1988)年	

		中学校		
		堅 田	仰 木	
沿 革		<ul style="list-style-type: none"> 昭和 22 年：前身の堅田町、仰木村、真野村、伊香立村、葛川村の 5 中学校創立 昭和 29 年：現在地に新校舎完成、移転 昭和 42 年：大津市立堅田中学校と改称 昭和 50 年：伊香立分校、葛川分校を分離 昭和 63 年：真野中学校を分離 平成 6 年：仰木中学校を分離 	<ul style="list-style-type: none"> 平成 6 年：堅田中学校から分離独立し、大津市立仰木中学校として新設開校 平成 8 年：仰木の里東小学校開校に伴い通学区域拡大（仰木の里東八丁目） 平成 9 年：通学区域拡大（衣川二丁目） 平成 10 年：通学区域拡大（雄琴北二丁目の一部） 	
教育の特徴 地域との関わり		<ul style="list-style-type: none"> 学力向上に向けた学習会等の実施 地域・保護者の学校への熱心な協力体制 	<ul style="list-style-type: none"> 「人が育ち、人が輝く」学校づくりを推進 地域本部コーディネーター事業の指定校で、ボランティア参加多数 生徒の地域行事への多数の参加 	
児童・生徒数 学級数推移 ()は 特別支援学級 (内数)	1980	740 人/20 学級 (5 人/2 学級)	-	
	2000	578 人/17 学級 (2 人/1 学級)	678 人/21 学級 (2 人/1 学級)	
	2010	467 人/15 学級 (6 人/2 学級)	625 人/21 学級 (3 人/2 学級)	
	2015	370 人/14 学級 (6 人/2 学級)	632 人/20 学級 (1 人/1 学級)	
通学環境	地理	地形	大部分が低地であり、西部に堅田丘陵と台地が分布し、居住地は校区全域に農地とともに広がる。堅田小学校区と同一校区をなす	西部は山地であり、居住地は東部の堅田丘陵を大規模に造成した住宅団地と旧集落地区に広がる。仰木・仰木の里・仰木の里東小学校区を有する
		標高	学校：87m 居住地：85～124m	学校：146m 居住地：95～233m
		通学距離 (時間)	2.3km(31 分)	2km(27 分)
	通学方法	概要	ほぼ全員が徒歩通学	9 割が徒歩、一部が JR、路線バスで通学
利用手段		徒歩：約 99% 公共交通：約 1%	徒歩：約 89% 公共交通：約 11%	
学校施設	保有面積	校地	25,214 m ²	48,924 m ²
		校舎	6,985 m ²	6,464 m ²
		運動場	10,805 m ²	17,357 m ²
	校舎建築年	昭和 55(1980) 年	平成 6(1994) 年	

中北部

		小学校			
		雄 琴	日吉台	坂 本	
沿 革		<ul style="list-style-type: none"> ・明治 6 年：前身、第 26 小（雄琴）、第 56 小（千野）創立 ・昭和 26 年：大津市立雄琴小学校に改称 ・昭和 36 年：現在地へ校舎新築移転 	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和 57 年：坂本小学校から分離独立し、大津市立日吉台小学校として新設開校 	<ul style="list-style-type: none"> ・明治 5 年：前身、至明学校、明治 6 年：篤明学校、明治 7 年：篤明小学校、明治 9 年：穴穂小学校創立 ・昭和 26 年：大津市立坂本小学校に改称 ・昭和 50 年：学区再編成により、穴太地区児童が新設校唐崎小学校へ編入 ・昭和 57 年：日吉台小学校を分離 	
教育の特徴 地域との関わり		<ul style="list-style-type: none"> ・高台の立地を利用した体力づくりと生活習慣の向上 ・地域の特性を活かした地域学習「おごと温泉学び旅」 ・住民は人情味豊かで学校教育に協力的な地域 	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模校で短い下校時間を活かした朝・昼の習熟タイム、放課後の個別対応時間の設定 ・地域の支援で校内農園、読み聞かせ、長期休業期間のマナビバなどを実施。地域行事にボランティアとして児童が参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団・感動・失敗等を体験する活動、人とのつながりを大切にした交流活動 ・「坂小のあたり前」として学習の構えを整えるための取組を推進 ・地域の人との交流機会、ゲストティーチャーの授業参加、地域行事への児童の参加等を通じて、地域と連携 	
児童・生徒数 学級数推移 ()は 特別支援学級 (内数)	1980	233 人/7 学級(—/—)	-	1,315 人/41 学級(9 人/2 学級)	
	2000	291 人/13 学級(2 人/1 学級)	205 人/7 学級(—/—)	547 人/23 学級(7 人/3 学級)	
	2010	253 人/13 学級(6 人/3 学級)	177 人/9 学級(2 人/2 学級)	478 人/17 学級(6 人/1 学級)	
	2015	329 人/14 学級(6 人/2 学級)	166 人/7 学級(2 人/1 学級)	384 人/14 学級(4 人/1 学級)	
通学環境	地理	地形	大部分が丘陵と台地・段丘からなり、居住地は湖岸付近の低地を中心に広がる	全域が堅田丘陵を大規模に造成した住宅地である	大部分が山地であるが、居住地は地区東部の台地・段丘、扇状地性の低地に広がる
		標高	学校：136m 居住地：86～178m	学校：136m 居住地：103～159m	学校：105m 居住地：89～201m
		通学距離 (時間)	2.0km(32 分)	0.9km(15 分)	2.2km(36 分)
	通学方法	概要	・全員が徒歩通学	・全員が徒歩通学	・ほぼ全員が徒歩通学
		利用手段	徒歩：100.0%	徒歩：100.0%	徒歩：99%以上 その他：1%未満
	学校施設	保有面積	校地	18,773 ㎡	23,594 ㎡
校舎			4,319 ㎡	4,615 ㎡	6,510 ㎡
運動場			6,164 ㎡	9,941 ㎡	11,279 ㎡
校舎建築年 ⁶		昭和 63(1988) 年	昭和 57(1982) 年	昭和 46(1971) 年	

⁵ 通学距離・時間：通学距離は、校区内の居住地域で学校から最も遠い場所までの直線距離であり、学校からこの範囲内に居住地が広がることを示す値で、実際の歩行距離とは異なる。通学時間は、小学生 3.7km/h、中学生 4.4km/h（出典：建築設計資料集成[人間]）で通学距離を除いて算出。

⁶ 校舎建築年：現在使用している校舎のうち、最も古い建物の建築年を示している。

		小学校			
		下阪本	唐 崎	志 賀	
沿革		<ul style="list-style-type: none"> ・明治 7 年:前身、漣小学校創立 ・明治 42 年:現在地に校舎を新築・移転 ・昭和 26 年:大津市立下阪本小学校に改称 ・昭和 53 年:学区改編により一部児童が唐崎小学校へ 	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和 50 年:志賀小、坂本小、下阪本小の学区改編により新学区を定め、唐崎小学校として新設開校 ・昭和 53 年:滋賀里地区が学区に編入 	<ul style="list-style-type: none"> ・明治 8 年:前身、花園学園創立 ・明治 28 年:校舎新築落成、現在地に移転 ・昭和 22 年:大津市立志賀小学校に改称 ・昭和 53 年:唐崎小学校を分離 ・昭和 54 年:比叡平小学校を分離 	
教育の特徴 地域との関わり		<ul style="list-style-type: none"> ・学ぶ力育成に向けた一部教科担任制、少人数指導の実施 ・小学校外国語活動のモデル校として全学年において英語学習を実施 ・地域と連携し、昔暮らし、農業、地域の仕事を体験的に学ぶ教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・隣接する保幼少中と滋賀大付属特別支援学校との相互交流。滋賀大学が進める発達障害早期支援事業の実践校 ・地域コーディネーター、学区の各団体と連携し地域資源を活用した教育の促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・言語活動の一環としてモジュール型の学びの時間を設定 ・近江神宮や古墳跡等の歴史的史跡を活用した学習 ・地域の人材を学習に積極的に活用し、児童と地域の交流を促進 	
児童・生徒数 学級数推移 ()は 特別支援学級 (内数)	1980	521 人/14 学級(—/—)	1,332 人/35 学級(4 人/1 学級)	953 人/26 学級(4 人/2 学級)	
	2000	552 人/19 学級(2 人/1 学級)	996 人/34 学級(10 人/3 学級)	872 人/29 学級(9 人/3 学級)	
	2010	735 人/26 学級(9 人/3 学級)	971 人/31 学級(7 人/2 学級)	912 人/33 学級(25 人/6 学級)	
	2015	735 人/27 学級(14 人/3 学級)	886 人/33 学級(15 人/4 学級)	794 人/30 学級(26 人/5 学級)	
通学環境	地理	地形	大部分が低地からなり、居住地は地区全域に農地とともに広がる	大部分が低地からなり、居住地は地区全域に農地とともに広がる	山麓の緩やかな傾斜地で、概ね全域が市街地となっている
		標高	学校：88m 居住地：86～140m	学校：87m 居住地：85～168m	学校：106m 居住地：87～160m
		通学距離 (時間)	2.2km(36分)	1.6km(26分)	0.9km(15分)
	通学方法	概要	・ほぼ全員が徒歩通学	・ほぼ全員が徒歩通学	・ほぼ全員が徒歩通学
		利用手段	徒歩：99%以上 その他：1%未満	徒歩：99%以上 公共交通：1%未満	徒歩：約 99% 公共交通：約 1%
学校施設	保有面積	校地	9,780 m ²	27,761 m ²	17,783 m ²
		校舎	6,002 m ²	7,743 m ²	5,596 m ²
		運動場	2,170 m ²	10,000 m ²	6,178 m ²
	校舎建築年	平成 17(2005)年	昭和 50(1975)年	昭和 36(1961)年	

		中学校		
		日吉	唐崎	
沿革		<ul style="list-style-type: none"> 昭和 22 年: 坂本中学校、下阪本中学校、雄琴中学校が各小学校に併設 昭和 23 年: 日吉中学校に改称 昭和 44 年: 現在地に新築移転 昭和 52 年: 唐崎中学校の新設に伴い坂本穴太町を分離 	<ul style="list-style-type: none"> 昭和 51 年: 日吉中学校から分離独立し、大津市立唐崎中学校として新設開校 	
教育の特徴 地域との関わり		<ul style="list-style-type: none"> 切磋琢磨し躍動する学校づくりの推進 「日吉子どもサミット」の取り組みが高評価 コミュニティー・スクールモデルの市指定校 	<ul style="list-style-type: none"> 学び合いによる学習スタイルの実施 部活動への地域のバックアップ、地域による支援と見守り活動、大学生が学力補充 	
児童・生徒数 学級数推移 ()は 特別支援学級 (内数)	1980	694 人/21 学級 (3 人/1 学級)	630 人/16 学級 (6 人/1 学級)	
	2000	806 人/29 学級 (6 人/3 学級)	641 人/20 学級 (1 人/1 学級)	
	2010	623 人/22 学級 (13 人/4 学級)	518 人/17 学級 (9 人/2 学級)	
	2015	692 人/26 学級 (20 人/5 学級)	415 人/15 学級 (14 人/3 学級)	
通学環境	地理	地形	西部は山地であり、居住地は東部の台地・段丘・扇状地性低地に広がる。雄琴・日吉台・坂本・下阪本小学校区を有する	大部分が低地からなり、居住地は地区全体に農地とともに広がる。唐崎・志賀小学校区（一部）を有する
		標高	学校：92m 居住地：86～201m	学校：90m 居住地：85～168m
		通学距離 (時間)	4.7km(64 分)	2.3km(31 分)
	通学方法	概要	・9 割が徒歩、他は JR (乗車時間約 3 分) で通学	・ほぼ全員が徒歩通学
		利用手段	徒歩：約 88% 公共交通：約 12%	徒歩：約 98% 公共交通：約 2%
学校施設	保有面積	校地	27,269 m ²	33,549 m ²
		校舎	7,444 m ²	6,051 m ²
		運動場	13,766 m ²	20,268 m ²
	校舎建築年	昭和 44 (1969) 年	昭和 52 (1977) 年	

中部

		小学校			
		志 賀	比叡平	藤 尾	
沿 革		<ul style="list-style-type: none"> ・明治 8 年:前身、花園学園創立 ・明治 28 年:校舎新築落成、現在地に移転 ・昭和 22 年:大津市立志賀小学校に改称 ・昭和 53 年:唐崎小学校を分離 ・昭和 54 年:比叡平小学校を分離 	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和 54 年:志賀小学校から分離独立し、大津市立比叡平小学校として新設開校 ・昭和 55 年:志賀小学校山中分校の廃校に伴い、比叡平小学校に統合 	<ul style="list-style-type: none"> ・明治 6 年:遵道学校創立 ・昭和 22 年:大津市立藤尾小学校に改称 ・昭和 46 年:現在地に新築校舎竣工 	
教育の特徴 地域との関わり		<ul style="list-style-type: none"> ・言語活動の一環としてモジュール型の学びの時間を設定 ・近江神宮や古墳跡等の歴史的史跡を活用した学習 ・地域の人材を学習に積極的に活用し、児童と地域の交流を促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模校であることを生かした、きめ細やかな指導や異学年交流機会を設定 ・敷地内に「だいらっこの森」(約 1ha)を所有し、各学年が学習や遊びに活用 ・地域の自主防災組織と連携した防災学習 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着を図るための教育法の改善、少人数指導や学年を越えた交換授業で児童の理解を深化 ・異年齢活動によるコミュニケーション力の育成 ・地域の人材を学習やクラブ活動へ活用 	
児童・生徒数 学級数推移 ()は 特別支援学級 (内数)	1980	953 人/26 学級(4 人/2 学級)	255 人/9 学級(—/—)	601 人/19 学級(4 人/2 学級)	
	2000	872 人/29 学級(9 人/3 学級)	147 人/6 学級(—/—)	296 人/13 学級(1 人/1 学級)	
	2010	912 人/33 学級(25 人/6 学級)	146 人/7 学級(2 人/1 学級)	246 人/11 学級(1 人/1 学級)	
	2015	794 人/30 学級(26 人/5 学級)	142 人/8 学級(3 人/2 学級)	192 人/7 学級(2 人/1 学級)	
通学環境	地理	地形	山麓の緩やかな傾斜地で、概ね全域が市街地となっている	比叡山中腹を開発した台地上の比叡平と、谷あいの山中の 2 地区からなる	山科に向けて緩やかに傾斜する扇状地と山麓を開発した台地上の造成地からなる
		標高	学校:106m 居住地:87~160m	学校:375m 居住地:253~385m	学校:103m 居住地:73~145m
		通学距離 (時間)	0.9km(15 分)	2.0km(32 分)	1.5km(24 分)
	通学方法	概要	・ほぼ全員が徒歩通学	・比叡平地区は全員が徒歩、山中地区は全員がスクールバスで通学	・ほぼ全員が徒歩通学
		利用手段	徒歩:約 99% 公共交通:約 1%	徒歩:約 96% スクールバス等:約 4%	徒歩:約 98% 公共交通:約 2%
	学校施設	保有面積	校地	17,783 ㎡	20,950 ㎡
校舎			5,596 ㎡	3,262 ㎡	4,523 ㎡
運動場			6,178 ㎡	8,212 ㎡	5,000 ㎡
校舎建築年 ⁸		昭和 36(1961) 年	昭和 54(1979) 年	昭和 46(1971) 年	

⁷ 通学距離・時間:通学距離は、校区内の居住地で学校から最も遠い場所までの直線距離であり、学校からこの範囲内に居住地が広がることを示す値で、実際の歩行距離とは異なる。通学時間は、小学生 3.7km/h、中学生 4.4km/h (出典:建築設計資料集成[人間])で通学距離を除いて算出。

⁸ 校舎建築年:現在使用している校舎のうち、最も古い建物の建築年を示している。

		小学校			
		長 等	逢 坂	中 央	
沿 革		<ul style="list-style-type: none"> ・明治6年:前身、修道学校、弘道学校創立 ・昭和22年:大津市立長等小学校に改称 ・昭和40年:現校舎の工事が完了、移転 	<ul style="list-style-type: none"> ・明治6年:前身、滋賀郡第6区第9小学校、滋賀郡第7区第15小学校創立 ・昭和22年:大津市立逢坂小学校に改称 ・昭和27年:文部省指定建築モデルスクールの1校として現在地に新築移転 	<ul style="list-style-type: none"> ・明治6年:前身、打出浜学校創立 ・昭和22年:大津市立中央小学校に改称 	
教育の特徴 地域との関わり		<ul style="list-style-type: none"> ・大津市伝統文化芸能会館を利用した狂言発表、大津絵教室、疎水等の地域の伝統や文化学習 ・新旧地域の良好な関係とPTAの熱心な地域活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・12年連続滋賀県環境部「エコスクール」に指定、ビオトープ設置による自然学習 ・地域のゲストティーチャーの授業参加・指導、児童の川掃除や金管バンドの地域行事参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模で個を大切にしたいきめ細かな指導 ・児童主体の学び合い学習とたてわり活動による仲間づくりの推進 ・地域の人が学校へ来たり児童が地域へでかける「地域の学校、みんなの学校」 	
児童・生徒数 学級数推移 ()は 特別支援学級 (内数)	1980	968人/25学級(1人/1学級)	658人/18学級(2人/1学級)	461人/15学級(9人/3学級)	
	2000	453人/16学級(1人/1学級)	376人/14学級(3人/1学級)	150人/6学級(-/-)	
	2010	725人/25学級(13人/3学級)	363人/15学級(7人/3学級)	217人/8学級(-/-)	
	2015	700人/26学級(13人/4学級)	396人/15学級(5人/2学級)	230人/11学級(9人/3学級)	
通学環境	地理	地形	西部は山地であり、居住地は東部の山麓の扇状地から湖岸の低地へ広がる	南部は山地であり、居住地は北部の扇状地から丘陵へ広がる	全域が琵琶湖岸から広がる低地で、すべてが市街地となっている
		標高	学校:93m 居住地:84~135m	学校:117m 居住地:100~138m	学校:87m 居住地:84~100m
		通学距離 (時間)	1.7km(28分)	1.1km(18分)	0.9km(15分)
	通学方法	概要	・ほぼ全員が徒歩通学	・ほぼ全員が徒歩通学	・ほぼ全員が徒歩通学
		利用手段	徒歩:約96% 公共交通:約2% その他:約2%	徒歩:約98% 公共交通:約1% その他:約1%	徒歩:約97% 公共交通:約2% その他:約1%
学校施設	保有面積	校地	14,281㎡	23,093㎡	12,224㎡
		校舎	5,329㎡	4,974㎡	2,928㎡
		運動場	6,000㎡	9,900㎡	5,858㎡
	校舎建築年	昭和32(1957)年	平成20(2008)年	昭和44(1969)年	

		小学校（関連校）	中学校		
		平野	皇子山	打出	
沿革		<ul style="list-style-type: none"> ・明治9年：前身、松本学校、峻明学校創立 ・昭和12年：現在地に移転 ・昭和22年：大津市立平野小学校に改称 ・昭和27年：学区変更 	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和22年：大津市立長等志賀中学校として創立 ・昭和24年：藤尾学区を編入 ・昭和24年：大津市立皇子山中学校に改称 ・昭和54年：比叡平小学校開設に伴い、山中比叡平学区を編入 	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和22年：大津市立第二中学校を逢坂小学校に、大津市立第三中学校を商工青年学校に併設開校 ・昭和23年：両中学校を統合し、大津市立中央中学校に改称 ・昭和24年：藤尾小学校を皇子山中学校区へ分離 ・昭和24年：大津市立打出中学校に改称 ・昭和58年：現在地に新築移転 	
教育の特徴 地域との関わり		<ul style="list-style-type: none"> ・「考える」「がんばる」「やさしい」「元気な」子どもの育成を推進。 ・地域による、夏休みの寺子屋プロジェクト、図書ボランティア、ゲストティーチャーなど、児童の地域行事参加など 	<ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた支援・生徒の主体的かつ能動的な学びのある授業、学び合いの導入 ・個を認め合う集団づくりの推進 ・地域、家庭、保幼少中との連携、コミュニティスクールの充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・確かな学力の向上、開発的生徒指導の推進、自立に向けた特別支援教育の充実を3つの柱とした指導体制 ・学校図書館、教育・部活動支援ボランティア、生徒のボランティア活動参加の推進 	
児童・生徒数 学級数推移 ()は 特別支援学級 (内数)	1980	1,454人/38学級(5人/2学級)	941人/24学級(4人/1学級)	1,077人/27学級(2人/2学級)	
	2000	735人/26学級(3人/2学級)	730人/24学級(4人/2学級)	758人/27学級(8人/3学級)	
	2010	1,080人/36学級(11人/5学級)	802人/25学級(12人/2学級)	696人/21学級(4人/2学級)	
	2015	1,151人/40学級(19人/5学級)	796人/25学級(14人/2学級)	839人/28学級(7人/3学級)	
通学環境	地理	地形	地区の琵琶湖側は低地、山手側には丘陵地が広がり、すべてが市街地となっている	多くが山地東側の扇状地、丘陵から琵琶湖岸へ至る低地に占められるが、比叡山中腹の比叡平学区及び京都市側に位置する藤尾学区を有する	居住地域は、山地北側の扇状地、丘陵から琵琶湖岸へ至る低地に集まっている。逢坂・中央・平野小学校区を有する
		標高	学校：91m 居住地：86～197m	学校：87m 居住地：84～385m	学校：130m 居住地：84～197m
		通学距離 (時間)	2.1km(34分)	5.0km(68分)	2.2km(30分)
	通学方法	概要	・ほぼ全員が徒歩通学	□4人に3人が徒歩、他は京阪電車（藤尾小、乗車時間約18分）、路線バス（比叡平小、乗車時間約27分）で通学	・ほぼ全員が徒歩通学
		利用手段	徒歩：約99% 公共交通：約1%	徒歩：約78% 公共交通：約22%	徒歩：約97% 公共交通：約2% その他：約1%
学校施設	保有面積	校地	16,466㎡	30,734㎡	42,640㎡
		校舎	7,019㎡	7,595㎡	8,115㎡
		運動場	5,450㎡	13,200㎡	13,839㎡
	校舎建築年	昭和45(1970)年	昭和36(1961)年	昭和58(1983)年	

中南部

		小学校			
		平野	膳所	富士見	
沿革		<ul style="list-style-type: none"> ・明治9年:前身、松本学校、峻明学校創立 ・昭和12年:現在地に移転 ・昭和22年:大津市立平野小学校に改称 ・昭和27年:学校区変更 	<ul style="list-style-type: none"> ・明治9年:前身、木下・屋錦・篠津・粟津・南粟津の各小学校創立 ・昭和8年:大津市立膳所小学校に改称 ・昭和48年:富士見小学校を分離 	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和48年:膳所小学校、晴嵐小学校から分離独立し、大津市立富士見小学校として新設開校 	
教育の特徴 地域との関わり		<ul style="list-style-type: none"> ・「考える」「がんばる」「やさしい」「元気な」子どもの育成を推進 ・地域による、夏休みの寺子屋プロジェクト、図書ボランティア、ゲストティーチャーなど、児童の地域行事参加など 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育目標は「ひとり立ちできる子ども」 ・複雑な交通事情や不審者等から子どもの安全を守るため、学区内の団体が連携して活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝10分間の学びタイム、一部教科担任制の採用、読書活動の推進 ・生涯スポーツの基礎作りと体力向上のための取組 ・敷地内「ふじみの森」での自然とのふれあい ・スクールガード、ゲストティーチャー等で地域と連携 	
児童・生徒数 学級数推移 ()は 特別支援学級 (内数)	1980	1,454人/38学級(5人/2学級)	1,529人/40学級(12人/3学級)	929人/25学級(7人/2学級)	
	2000	735人/26学級(3人/2学級)	863人/26学級(4人/1学級)	637人/21学級(1人/1学級)	
	2010	1,080人/36学級(11人/5学級)	740人/28学級(12人/4学級)	586人/21学級(21人/4学級)	
	2015	1,151人/40学級(19人/5学級)	649人/27学級(26人/5学級)	503人/20学級(12人/3学級)	
通学環境	地理	地形	地区の琵琶湖側は低地、山手側には丘陵地が広がり、すべてが市街地となっている	地区の琵琶湖側は低地、山手側には丘陵地が広がり、南西部は山地である。南西部の山地部を除き、すべてが市街地となっている	西部は山地であり、東部は丘陵・段丘となっており、東部はすべてが市街地となっている
		標高	学校:91m 居住地:86~197m	学校:98m 居住地:87~143m	学校:135m 居住地:103~197m
		通学距離 (時間)	2.1km(34分)	1.5km(24分)	1.7km(28分)
	通学方法	概要	・ほぼ全員が徒歩通学	・ほぼ全員が徒歩通学	・全員が徒歩通学
		利用手段	徒歩:約99% 公共交通:約1%	徒歩:約99% 公共交通:約1%	徒歩:100.0%
	学校施設	保有面積	校地	16,466㎡	27,240㎡
校舎			7,019㎡	7,028㎡	6,163㎡
運動場			5,450㎡	10,000㎡	15,400㎡
校舎建築年 ¹⁰		昭和45(1970)年	昭和43(1968)年	昭和48(1973)年	

⁹ 通学距離・時間:通学距離は、校区内の居住地域で学校から最も遠い場所までの直線距離であり、学校からこの範囲内に居住地が広がることを示す値で、実際の歩行距離とは異なる。通学時間は、小学生3.7km/h、中学生4.4km/h(出典:建築設計資料集成[人間])で通学距離を除いて算出。

¹⁰ 校舎建築年:現在使用している校舎のうち、最も古い建物の建築年を示している。

		小学校	中学校		
		晴 嵐	粟 津	北大路	
沿 革		<ul style="list-style-type: none"> 昭和 11 年:膳所小学校、石山小学校から分離独立し、新設開校 昭和 22 年:大津市立晴嵐小学校に改称 昭和 38 年:新校舎本館竣工、移転 昭和 48 年:富士見小学校を分離 	<ul style="list-style-type: none"> 昭和 22 年:第 4 中学校、第 5 中学校・分校創立 昭和 24 年:第 4 中学校、第 5 中学校が合併し大津市立粟津中学校に改称、現在地に設置 昭和 57 年:大津市立北大路中学校を分離 	<ul style="list-style-type: none"> 昭和 57 年:粟津中学校から分離独立し、大津市立北大路中学校として新設開校 	
教育の特徴 地域との関わり		<ul style="list-style-type: none"> 地域の特性を活かした地域探訪学習の展開 スクールガードや読書ボランティア等地域からの支援、児童の地域行事への参加も活発 	<ul style="list-style-type: none"> 個に応じた支援の充実による学力の定着 教科・領域と関係する体験学習やボランティア活動の実施 地域団体とのふれあい事業、地域行事への生徒の積極的な参加、学校公開の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 自ら進んで物事に取り組み、自ら決めたことをねばり強く実行することを示す「自主力行」が校訓 「五感学習」「凡事徹底」「体力向上」「信頼・協同」が重点目標 地域活動の場として体育館などの施設を開放 	
児童・生徒数 学級数推移 ()は 特別支援学級 (内数)	1980	1463 人/38 学級(4 人/2 学級)	1,604 人/43 学級(11 人/4 学級)	-	
	2000	942 人/33 学級(3 人/3 学級)	557 人/17 学級(1 人/1 学級)	576 人/19 学級(2 人/2 学級)	
	2010	959 人/32 学級(11 人/2 学級)	520 人/17 学級(5 人/2 学級)	625 人/20 学級(12 人/3 学級)	
	2015	835 人/30 学級(12 人/3 学級)	516 人/19 学級(16 人/4 学級)	537 人/19 学級(10 人/3 学級)	
通学環境	地理	地形	西部は山地と丘陵地であり、東部は低地と台地となっており、東部はすべてが市街地となっている	西部の山地を除き、ほぼ全域が丘陵地・低地で市街地となっている。膳所・晴嵐小学校区(一部)を有する	西部の山地を除き、ほぼ全域が丘陵地・台地・低地であり市街地となっている。晴嵐(一部)・富士見小学校区を有する
		標高	学校:107m 居住地:86~257m	学校:87m 居住地:86~143m	学校:124m 居住地:86~257m
		通学距離 (時間)	3.2km(52分)	2.8km(38分)	2.8km(38分)
	通学方法	概要	ほぼ全員が徒歩通学	5人に4人が徒歩で、一部が京阪電車、路線バス、自転車で通学	10人に7人が徒歩、他が自転車で通学
		利用手段	徒歩:99%以上 公共交通:1%未満	徒歩:約80% 自転車:約6% 公共交通:約13% その他:約1%	徒歩:約70% 自転車:約30%
	学校施設	保有面積	校地	26,440 m ²	29,784 m ²
校舎			6,699 m ²	7,620 m ²	6,537 m ²
運動場			8,500 m ²	13,546 m ²	9,669 m ²
校舎建築年		昭和 38(1963)年	昭和 34(1959)年	昭和 57(1982)年	

		中学校（関連校）	
		打 出	
沿 革		・昭和 22 年：大津市立第二中学校を逢坂小学校に、大津市立第三中学校を商工青年学校に併設開校 ・昭和 23 年：両中学校を統合し、大津市立中央中学校に改称 ・昭和 24 年：藤尾小学校を皇子山中学校区へ分離 ・昭和 24 年：大津市立打出中学校に改称 ・昭和 58 年：現在地に新築移転	
教育の特徴 地域との関わり		・確かな学力の向上、開発的生徒指導の推進、自立に向けた特別支援教育の充実を3つの柱とした指導体制 ・学校図書館、教育・部活動支援ボランティア、生徒のボランティア活動参加の推進	
児童・生徒数 学級数推移 ()は 特別支援学級 (内数)	1980	1,077 人/27 学級(2 人/2 学級)	
	2000	758 人/27 学級(8 人/3 学級)	
	2010	696 人/21 学級(4 人/2 学級)	
	2015	839 人/28 学級(7 人/3 学級)	
通学環境	地理	地形	居住地域は、山地北側の扇状地、丘陵から琵琶湖岸へ至る低地に集まっている。逢坂・中央・平野小学校区を有する
		標高	学校：130m 居住地：84～197m
		通学距離 (時間)	2.2km(30 分)
	通学方法	概要	ほぼ全員が徒歩通学
利用手段		徒歩：約 97% 公共交通：約 2% その他：約 1%	
学校施設	保有面積	校地	42,640 m ²
		校舎	8,115 m ²
		運動場	13,839 m ²
	校舎建築年	昭和 58(1983) 年	

南部

		小学校			
		石 山	南 郷	大 石	
沿 革		<ul style="list-style-type: none"> ・明治 7 年：前身、開秀学校創立 ・昭和 10 年：現在地に校舎新築 ・昭和 22 年：大津市立石山小学校に改称 ・昭和 54 年：南郷小学校を分離（校区：千町・赤尾町以南） 	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和 54 年：現在地に、石山小学校から分離独立し、大津市立南郷小学校として新設開校 	<ul style="list-style-type: none"> ・明治 5 年に富川学校、明治 6 年に鹿鳴学校、明治 7 年に八張口学校、明治 9 年に大石学校がそれぞれ創立 ・明治 16 年：現在地に校舎新築、忌伊勢学校に改称 ・昭和 22 年：大石村立大石小学校に改称 ・昭和 26 年：大津市立大石小学校に改称 	
教育の特徴 地域との関わり		<ul style="list-style-type: none"> ・「I l i s m」を旗印に、学区の 1 幼 1 小 1 中・地域住民が連携し、石山の子どもは石山全体で育てようとする土壤 ・学区内の滋賀大学生の授業への参加 ・理科・書写・家庭科学習に地域ボランティアの支援 ・石山小学校 6 つの約束のゆるキャラ ・いじめ撲滅ゆるキャラ「石山式部っち」が授業や行事に登場 	<ul style="list-style-type: none"> ・確かな学力・豊かな心・健やかな身体を育むための教育 ・地域・保護者ボランティアによる地域学習支援、近隣中学校生徒会との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・恵まれた自然と地域住民の力を活用し、充実した体験学習 ・学校評価委員会を設置し、保護者や地域関係者、学習支援者などの意見を取り入れた学校評価を展開 ・総合的な学習の時間「ししとび」を中心に、文化財や自然、施設、地域の関係団体を活用した郷土愛を育む教育 	
児童・生徒数 学級数推移 ()は 特別支援学級 (内数)	1980	1,517 人/39 学級(7 人/3 学級)	895 人/25 学級(3 人/1 学級)	286 人/11 学級(—/—)	
	2000	774 人/28 学級(11 人/3 学級)	575 人/21 学級(3 人/2 学級)	323 人/16 学級(2 人/2 学級)	
	2010	686 人/25 学級(12 人/3 学級)	545 人/19 学級(2 人/1 学級)	472 人/16 学級(3 人/1 学級)	
	2015	578 人/23 学級(18 人/4 学級)	541 人/19 学級(10 人/2 学級)	359 人/16 学級(8 人/2 学級)	
通学環境	地理	地形	北部と西部が山地、東南部が丘陵・台地や平野などの低地であり、市街地は東南部に広がっている	大部分は山地であり、北東部に丘陵・台地や平野などの低地は居住地となっている	大部分は山地であり、居住地は北部の瀬田川沿いや信楽川沿いの丘陵・台地・平野などの低地に位置している
		標高	学校：89m 居住地：86～152m	学校：88m 居住地：86～226m	学校：82m 居住地：80～147m
		通学距離 (時間)	2.0km(32 分)	3.9km(63 分)	4.2km(68 分)
	通学方法	概要	・ほぼ全員が徒歩通学	・全員が徒歩通学	・ほぼ全員が徒歩通学
利用手段		徒歩：約 96% その他：約 4%	徒歩：100.0%	徒歩：約 96% スクールバス等：約 1% 公共交通：約 3%	
学校施設	保有面積	校地	17,635 ㎡	20,157 ㎡	19,895 ㎡
		校舎	7,158 ㎡	6,834 ㎡	4,685 ㎡
		運動場	8,720 ㎡	9,917 ㎡	5,099 ㎡
	校舎建築年 ¹²	昭和 46(1971)年	昭和 49(1974)年	平成 3(1991)年	

¹¹ 通学距離・時間：通学距離は、校区内の居住地域で学校から最も遠い場所までの直線距離であり、学校からこの範囲内に居住地が広がることを示す値で、実際の歩行距離とは異なる。通学時間は、小学生 3.7km/h、中学生 4.4km/h（出典：建築設計資料集成[人間]）で通学距離を除いて算出。

¹² 校舎建築年：現在使用している校舎のうち、最も古い建物の建築年を示している。

		小学校		中学校				
		田 上		石 山		南 郷		
沿 革		<ul style="list-style-type: none"> ・明治6年:前身、時中学校創立 ・昭和26年:大津市立田上小学校に改称 		<ul style="list-style-type: none"> ・昭和27年:大津市立南郷中学校創立 ・昭和52年:現在地に新築・移転。 ・昭和62年:分離校を南郷中学校とし、母体校を石山中学校に改称 		<ul style="list-style-type: none"> ・昭和62年:石山中学校から分離独立し、大津市立南郷中学校として新設開校 		
教育の特徴 地域との関わり		<ul style="list-style-type: none"> ・地域人材や自然豊かな環境を生かした教材を取り入れた大豆栽培からのみそ造りなどの学習が特徴 ・運動会や長期休業中の学力補助などで小中連携教育を推進 		<ul style="list-style-type: none"> ・全学年での勤労福祉体験や自然体験を重視した宿泊体験等の体験的な学習 ・一小一中の強みを生かした保幼小中連携 ・保護者・PTA・地域の学区民会議や自治会・民生児童委員との連携を重視し、情報の共有化と改善のための取組を実施 		<ul style="list-style-type: none"> ・全ての普通学級に電子黒板を整備、学校ICTを積極的に活用した授業 ・地域人材による授業への支援、生徒会・部活動での地域行事参加 ・全国レベルの部活動(バドミントン部、陸上部) 		
児童・生徒数 学級数推移 ()は 特別支援学級 (内数)	1980	667人/22学級(2人/1学級)		-		970人/25学級(3人/1学級)		
	2000	976人/37学級(9人/4学級)		312人/11学級(4人/1学級)		588人/18学級(3人/1学級)		
	2010	581人/21学級(4人/2学級)		304人/11学級(6人/2学級)		406人/12学級(—/—)		
	2015	481人/21学級(20人/4学級)		304人/11学級(8人/2学級)		485人/17学級(4人/2学級)		
通学環境	地理	地形	大部分は山地であり、居住地は西部の大戸川に沿った広い扇状地や低地部分に農地とともに広がる		北部と西部が山地、東南部が丘陵地・台地や平野などの低地をなしており、低地のほとんどが市街地となっている。石山小学校区と同一校区をなす		大部分は山地であり、北部の瀬田川沿いの低地、中部付近の瀬田川支流(信楽川)沿いに住宅地・集落が位置する。南郷・大石小学校区を有する	
		標高	学校:105m 居住地:84~129m		学校:91m 居住地:86~152m		学校:120m 居住地:80~226m	
		通学距離 (時間)	2.3km(37分)		2.3km(31分)		8.0km(109分)	
	通学方法	概要	ほぼ全員が徒歩通学		4人に3人が徒歩、他はほぼ自転車通学		2人に1人が徒歩、他は路線バス(乗車時間約12分)で通学	
		利用手段	徒歩:99%以上 その他:1%未満		徒歩:約78% 自転車:約20% 公共交通:約1% その他:約1%		徒歩:約52% 自転車:約4% 公共交通:約44%	
学校施設	保有面積	校地	27,273㎡		27,267㎡		45,546㎡	
		校舎	7,972㎡		7,545㎡		6,092㎡	
		運動場	9,717㎡		12,659㎡		13,006㎡	
	校舎建築年	昭和48(1973)年		昭和54(1979)年		昭和62(1987)年		

		中学校（関連校）	
		田 上	
沿 革		<ul style="list-style-type: none"> ・昭和 22 年：上田上村立・下田上村立各中学校創立 ・昭和 24 年：上田上中学校と下田上中学校が合併し、上田上村・下田上村組合立田上中学校として発足 ・昭和 42 年：大津市立田上中学校に改称 ・平成 10 年：青山中学校を分離 	
教育の特徴 地域との関わり		<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的・主体的に活動する生徒の育成 ・地域コーディネーターによる支援ボランティアと学生による地域行事への参加 ・保幼小中の連携と 11 年間を意識した教育 	
児童・生徒数 学級数推移 ()は 特別支援学級 (内数)	1980	343 人/11 学級(—/—)	
	2000	702 人/22 学級(3 人/1 学級)	
	2010	401 人/13 学級(2 人/1 学級)	
	2015	290 人/10 学級(2 人/1 学級)	
通学環境	地理	地形	大部分は山地であり、大戸川沿いの扇状地や低地に住宅地・集落が位置する。田上・上田上小学校区を有する
		標高	学校：97m 居住地：84～129m
		通学距離 (時間)	5.0km(68 分)
	通学方法	概要	・ほぼ全員が自転車で通学
		利用手段	徒歩：約 3% 自転車：約 97%
学校施設	保有面積	校地	24,205 m ²
		校舎	6,322 m ²
		運動場	10,969 m ²
	校舎建築年	昭和 52(1977) 年	

東部

		小学校			
		上田上	青山	瀬田	
沿革		<ul style="list-style-type: none"> 明治8年:平牧学校、誘説学校、植田学校、中行学校、明治9年:桐生小学校創立 昭和42年:大津市立上田上小学校に改称 平成元年:青山一丁目の児童が通学を開始 平成4年:大津市立青山小学校を分離 	<ul style="list-style-type: none"> 平成4年:上田上小学校から分離独立し、大津市立青山小学校として新設開校 平成12年:学校区編成替えにより桐生地区を編入 	<ul style="list-style-type: none"> 明治8年前身、瀬田学校、啓蒙学校、明治9年萱野学校創立 昭和42年大津市立瀬田小学校に改称 昭和51年瀬田南小学校を分離 昭和55年瀬田東小学校を分離 平成元年瀬田北小学校を分離 平成15年学校区再編により、瀬田北小学校の校区から一部編入 	
教育の特徴 地域との関わり		<ul style="list-style-type: none"> 地域の人材や素材を生かしたみそ造り、そば打ち等体験学習が充実 小規模のよさを生かした縦割り活動が充実、児童同士が理解しあう温かい集団を形成 地域住民参加や資材提供等による学習への積極的かつ多様な協力、児童の地域行事等への参加 	<ul style="list-style-type: none"> 学び合いに重点を置いた指導を実施 地域のもの・こと・ひとを教材とした探究的な学習の実施 地域交流活動、縦割り活動、集団宿泊活動等で他人を思いやる心の育成 「学校・地域コーディネート本部事業」及び「スクールイノベーションプロジェクト」の指定校 	<ul style="list-style-type: none"> 「やさしく(心)かしこく(頭)たくましく(体)を合言葉に「自分も人も大切に」する子どもを育成する取組の推進 「せたつ子 心を育てる 3つのやくそく」(挨拶・掃除・話を聴く)の指導の徹底 「ボランティア配食」や「寺子屋」「ふれあい親子まつり」等の地域交流、スクールガードや地域関係者による声かけやパトロール活動の充実 	
児童・生徒数 学級数推移 ()は 特別支援学級 (内数)	1980	324人/10学級(—/—)	-	1,151人/31学級(3人/3学級)	
	2000	145人/10学級(2人/2学級)	511人/20学級(5人/2学級)	591人/20学級(2人/1学級)	
	2010	108人/6学級(—/—)	1,017人/31学級(8人/2学級)	949人/31学級(10人/3学級)	
	2015	79人/6学級(—/—)	1,037人/35学級(21人/5学級)	1,071人/38学級(16人/6学級)	
通学環境	地理	地形	大部分は山地であり、居住地は北西部の大戸川に沿った広い低地に農地とともに広がる	大部分は山地であり、北西部の丘陵地の青山・松が丘地区には住宅団地が開発されている	丘陵・台地と低地からなり、北部は商業が発達、南部一帯は住宅地となっており、山手には大学が立地している
		標高	学校:104m 居住地:96~126m	学校:135m 居住地:128~175m	学校:96m 居住地:85~138m
		通学距離 (時間)	2.8km(45分)	2.0km(32分)	1.8km(29分)
	通学方法	概要	5人に4人が徒歩で、その他が路線バス(乗車時間約5分)で通学	全員が徒歩通学	全員が徒歩通学
利用手段		徒歩:約82% 公共交通:約18%	徒歩:100.0%	徒歩:100.0%	
学校施設	保有面積	校地	15,163㎡	23,209㎡	22,754㎡
		校舎	2,569㎡	6,200㎡	7,158㎡
		運動場	6,000㎡	11,355㎡	10,000㎡
	校舎建築年 ¹⁴	昭和39(1964)年	平成4(1992)年	昭和32(1957)年	

¹³ 通学距離・時間:通学距離は、校区内の居住地域で学校から最も遠い場所までの直線距離であり、学校からこの範囲内に居住地が広がることを示す値で、実際の歩行距離とは異なる。通学時間は、小学生3.7km/h、中学生4.4km/h(出典:建築設計資料集成[人間])で通学距離を除いて算出。

¹⁴ 校舎建築年:現在使用している校舎のうち、最も古い建物の建築年を示している。

		小学校			
		瀬田南	瀬田東	瀬田北	
沿革		昭和 51 年:瀬田小学校から分離独立し、大津市立瀬田南小学校として新設開校	昭和 55 年:瀬田小学校から分離独立し、大津市立瀬田東小学校として新設開校 平成 15 年:学校区再編により、瀬田北小学校の校区から一部編入	平成元年:瀬田小学校から分離独立し、大津市立瀬田北小学校として新設開校 平成 15 年:学校区再編により、大萱一丁目・大萱四丁目全域・大萱三丁目の一部が、瀬田東小学校区、瀬田小学校区に編入	
教育の特徴 地域との関わり		<ul style="list-style-type: none"> 学習課題と児童の学び合いを重視した授業実践 「学びの基礎体験型学習プロジェクト」県研究指定校で、幼保連携による学び推進 児童より募った学校改善ボランティアによる自治的校風作りを推進 地域による青パト活動、休業日児童生活支援活動、児童ブラスカンドの地域行事参加 	<ul style="list-style-type: none"> 協同的な学びを大切にした授業づくりを推進 食育、体育科学習の充実や運動の生活化を推進 滋賀医科大学附属病院内に院内学級「ひまわり」を開設 	<ul style="list-style-type: none"> 「せいいっぱいする子ども・たすけあう子ども・きりひらく子ども・たくましい子ども」の合言葉を重点化・意識化した取り組みを推進 「瀬田北小ブランド まじめに せ・た・き・た」を教育活動展開の柱とし、その定着に努めている 子どもたちの登下校の際には、地域の方々や保護者による見守りを実施している他、地域ボランティアとして読み聞かせや授業の講師などで協力いただいている 	
児童・生徒数 学級数推移 ()は 特別支援学級 (内数)	1980	1,397人/36学級(14人/2学級)	930人/26学級(1人/1学級)	-	
	2000	781人/27学級(6人/2学級)	852人/33学級(6人/4学級)	906人/30学級(9人/3学級)	
	2010	881人/31学級(16人/4学級)	954人/34学級(20人/7学級)	985人/32学級(11人/4学級)	
	2015	882人/34学級(23人/6学級)	1,000人/34学級(22人/5学級)	970人/34学級(18人/4学級)	
通学環境	地理	地形	丘陵・台地と低地からなり、ほぼ地区全域が市街地となっている	丘陵・台地と低地からなり、北部は市街地となっており、南部はゴルフ場となっている	台地と低地からなり、東部は市街地となっており、西部は住宅地が農地とともに広がる
		標高	学校：117m 居住地：85～128m	学校：102m 居住地：93～136m	学校：90m 居住地：86～100m
		通学距離 (時間)	2.3km(37分)	1.4km(23分)	1.3km(21分)
	通学方法	概要	ほぼ全員が徒歩通学	ほぼ全員が徒歩通学	全員が徒歩通学
		利用手段	徒歩：約96% 公共交通：約4%	徒歩：99%以上 その他：1%未満	徒歩：100.0%
学校施設	保有面積	校地	29,551㎡	21,521㎡	23,986㎡
		校舎	7,461㎡	6,194㎡	6,431㎡
		運動場	12,546㎡	8,790㎡	11,495㎡
	校舎建築年	昭和36(1961)年	昭和55(1980)年	平成元(1989)年	

		小学校（関連校）	中学校		
		田 上	田 上	青 山	
沿 革		<ul style="list-style-type: none"> ・明治6年：前身、時中学校創立 ・昭和26年：大津市立田上小学校に改称 	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和22年：上田上村立・下田上村立各中学校創立 ・昭和24年：上田上中学校と下田上中学校が合併し、上田上村・下田上村組合立田上中学校として発足 ・昭和42年：大津市立田上中学校に改称 ・平成10年：青山中学校を分離 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成10年：田上中学校から分離独立し、大津市立青山中学校として新設開校 	
教育の特徴 地域との関わり		<ul style="list-style-type: none"> ・地域人材や自然豊かな環境を生かした教材を取り入れた大豆栽培からのみそ造りなどの学習が特徴 ・運動会や長期休業中の学力補助などで小中連携教育を推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的・主体的に活動する生徒の育成 ・地域コーディネーターによる支援ボランティアと学生による地域行事への参加 ・保幼小中の連携と11年間を意識した教育 	<ul style="list-style-type: none"> ・「めあて」「目標」を明記した、教育活動、授業の実践 ・部活動の活性化による、生徒の主体性、自主性の育成 ・生徒会活動を通じた、望ましい人間関係の構築といじめ防止にむけた積極的な取り組み 	
児童・生徒数 学級数推移 ()は 特別支援学級 (内数)	1980	667人/22学級(2人/1学級)	343人/11学級(—/—)	-	
	2000	976人/37学級(9人/4学級)	702人/22学級(3人/1学級)	256人/8学級(—/—)	
	2010	581人/21学級(4人/2学級)	401人/13学級(2人/1学級)	352人/12学級(1人/1学級)	
	2015	481人/21学級(20人/4学級)	290人/10学級(2人/1学級)	501人/17学級(1人/1学級)	
通学環境	地理	地形	大部分は山地であり、居住地は西部の大戸川に沿った広い扇状地や低地部分に農地とともに広がる	大部分は山地であり、大戸川沿いの扇状地や低地に住宅地・集落が位置する。田上・上田上小学校校区を有する	大部分は山地であり、北西部の丘陵地の青山・松が丘地区には住宅団地が開発されている。青山小学区と同一校区をなす
		標高	学校：105m 居住地：84～129m	学校：97m 居住地：84～129m	学校：140m 居住地：128～175m
		通学距離 (時間)	2.3km(37分)	5.0km(68分)	2.0km(27分)
	通学方法	概要	・ほぼ全員が徒歩通学	・ほぼ全員が自転車で通学	・9割以上が徒歩、他が自転車で通学
		利用手段	徒歩：99%以上 その他：1%未満	徒歩：約3% 自転車：約97%	徒歩：約95% 自転車：約4% その他：約1%
学校施設	保有面積	校地	27,273㎡	24,205㎡	26,717㎡
		校舎	7,972㎡	6,322㎡	5,273㎡
		運動場	9,717㎡	10,969㎡	13,257㎡
	校舎建築年	昭和48(1973)年	昭和52(1977)年	平成10(1998)年	

		中学校		
		瀬田	瀬田北	
沿革		<ul style="list-style-type: none"> 昭和 22 年:瀬田町立瀬田中学校創立 昭和 23 年:瀬田町、上田上村、下田上村、大石村組合立栗南中学校として発足 昭和 50 年:新校舎竣工、移転 昭和 58 年:瀬田北中学校を分離 	<ul style="list-style-type: none"> 昭和 58 年:瀬田中学校から分離独立し、大津市立瀬田北中学校として新設開校 	
教育の特徴 地域との関わり		<ul style="list-style-type: none"> 「学びを志し、時を守り、場を正し、礼を尽くすことが出来る生徒の育成」が学校経営の主題 地域とともに歩む学校として、授業公開や家庭・地域との連携への積極的な取組 	<ul style="list-style-type: none"> 「自律・創造」～心豊かで、たくましく未来を拓く生徒の育成～が校訓 比較的新しい学校であることによる地域住民の自負心と強い愛校心 部活動への地域の活発な支援 	
児童・生徒数 学級数推移 ()は 特別支援学級 (内数)	1980	1295 人/32 学級(13 人/2 学級)	-	
	2000	703 人/22 学級(4 人/2 学級)	897 人/29 学級(10 人/3 学級)	
	2010	671 人/22 学級(12 人/3 学級)	878 人/29 学級(10 人/5 学級)	
	2015	852 人/29 学級(18 人/4 学級)	959 人/33 学級(17 人/6 学級)	
通学環境	地理	地形	丘陵・台地・低地からなり、北部に商業地と住宅地が広がり市街地を形成している。瀬田・瀬田南小学校区を有する	丘陵・台地・低地からなり、東南部の一部地域を除きほぼ全域が市街地となっている。瀬田北・瀬田東小学校区を有する
		標高	学校：112m 居住地：85～138m	学校：90m 居住地：86～136m
		通学距離 (時間)	2.9km(40分)	2.7km(37分)
	通学方法	概要	5人に3人が徒歩、他は自転車で通学	ほぼ全員が徒歩通学
		利用手段	徒歩：約 64% 自転車：約 36%	徒歩：99%以上 その他：1%未満
学校施設	保有面積	校地	39,661 m ²	34,780 m ²
		校舎	8,372 m ²	7,523 m ²
		運動場	15,000 m ²	14,994 m ²
	校舎建築年	昭和 52(1977) 年	昭和 58(1983) 年	